1 ミサワホーム株式会社

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	● グループ全体で温室効果ガス排出削減に対する意識や活動を高める。 ● サプライチェーン全体を把握することで、環境負荷の全体像を意識した取り組みができると判断。 ● 地球環境保全の為に、サプライチェーン全体における取り組みがますます重要になり、社会的な要求になってきている。
□ 算定結果の活用方法	● 商品開発や技術開発を行う上で、排出量の削減対策や効果に活用。 ● ホームページやCSRレポートでの情報開示及び各種アンケートへの対応。
□ 算定のメリット	● サプライチェーン全体及びカテゴリごとの把握ができることにより、グループ全体としての目標が明確化。
□ 社内の算定体制	● 社内の関連部門よりデータを収集し、コーポレートコミュニケーション課が算定。 ● 開発、設計、営業活動に基づく建築物の使用時のエネルギー、工場における部材の生産時のエネルギー、施工現場でのエネルギー、輸送時のエネルギー、廃棄物、労務関連データ等を各部門が収集。

2 ミサワホーム株式会社

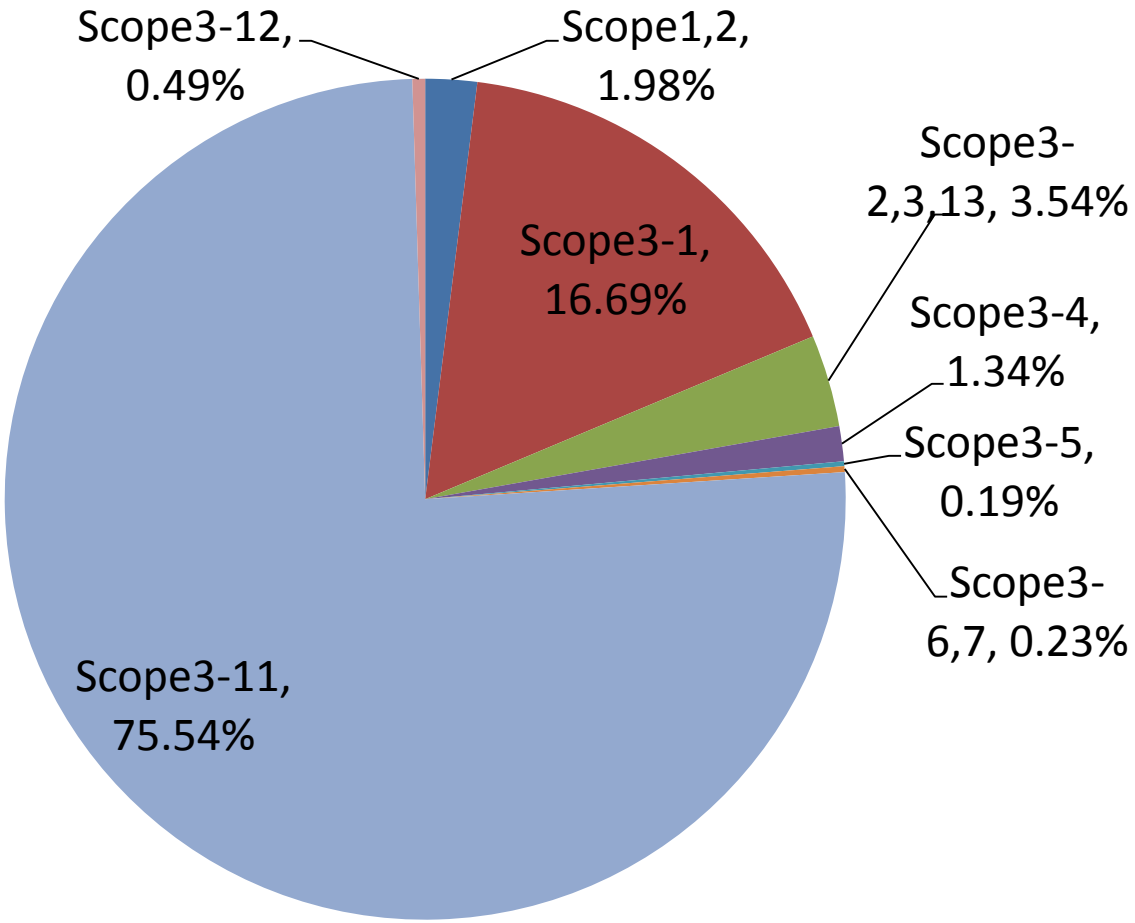
	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	● 排出量の算定から大きなウエイトを占める「購入した製品・サービス」及び「販売した製品の使用」を考慮した、商品及び部品等の開発を推進。 ● ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー住宅）の推進。 ● 省エネルギー住宅の供給推進（ハード面）と同時に、ご入居者様への住まい方（ソフト面）についても提案。 ● 省部材設計及び工業化施工技術の更なる推進。 ● サプライヤーと協働して、CO2排出量の削減活動の企画提案を推進。
□ サプライチェーン排出量算定の課題	● サンプリング集計から実データ集計に移行することによる作業負荷の増加を軽減するため、自動化の構築。 ● 集計範囲の見直し及び拡大による目標値の設定。
□ その他（任意）	● 「購入した製品・サービス」の再生有機系建材部材「M－WOOD2」として、製造時の消費されるエネルギー量を削減。

3 ミサワホーム株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の購入量	● 調達量当り原単位（※1）
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 資本財の価格当り原単位（※2）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気等のエネルギー使用量	● エネルギー量当り原単位（※2）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● 燃料当り原単位（※2）
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位（※2）
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 従業員当りの原単位（※2）
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数	● 従業員数・勤務日数当り排出原単位（※2）
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● スコープ1，2で計上済	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 該当なし	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 居住時のエネルギー使用量（30年間）	● 年間CO_2排出量（自社計算）
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 廃棄物排出量X年度棟数	● 廃棄物原単位（※2）
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● ｴﾈﾙｷﾞｰ消費量Xｴﾈﾙｷﾞｰ種別の排出量	● エネルギー使用量当りの原単位（※2）
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	
カテゴリ15「投資」	● 基本ガイドラインで規定される適用事業者に該当しないため除外	
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	

※1：日本建築学会LCA指針（2013．2）
※2：ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝを通じた組織の温室効果ｶﾞｽ排出等の算定のための排出原単位ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（Ver2.4）

4 ミサワホーム株式会社

算定結果

- サプライチェーン排出量